

宮城山岳通信 第29号

目次

巻頭言	支部長 2頁
令和5年度通常総会 議事録	事務局 2~3頁
定例役員会報告(3月・5月・6月)	事務局 3~6頁
全国山岳古道調査関係	事務局 7頁
宮城支部 山行報告	
☆早春山行〈白沢五山〉(共益事業)	遠藤幸壽 7~9頁
☆春山山行〈七ッ森「七薬師かけ」〉(共益事業)	細川光一 9~11頁
☆梅雨払い山行〈南蔵王・水引入道〉(共益事業)	八尾 寛 11~13頁
準会員・支部友 入会員紹介	事務局 14頁
全国支部懇談会 開催のご案内	事務局 14頁
今後の行事予定	事務局 14頁
編集後記	会報・編集出版委員長 . . . 14頁

巻 頭 言

支部長 千石 信夫

新年度に入り4半期が過ぎようとしている。その間、本部との連絡会議において、会員数の減少傾向の推移、決算書の推移が、総会資料の中で説明された。

会員については、この5年間、毎年入会者（復活会員を含む）から退会者（物故者、除籍者を含む）を差し引いた増減数が、100人を超える減少となっている。おのずと会費の収入が減り赤字が続く、新年度も赤字の予算を計上せざるを得ない状況であるとの説明がなされた。

南久松理事から、財政的に厳しい状況が続いているので、この状況が続けば会を維持できなくなる可能性があるとの説明があった。

様々意見はあったが、会員増に成功している支部などの成功体験の事例を共有し、参考にしていったらよいのではないかとの発言もあった。

振り返って我が支部の状況も厳しい状況にあり、大きな課題となっている。その中で私は、「日本山岳会の魅力とは、何だろう」と考えたときに、若者が魅力的に感じる山登りをやることもあるが、日本山岳会は全国組織の会であるので、会のイベントや同好会など積極的に参加していけば、面白い出会いや魅力的な活動ができるのではないかと思っている。地域ひとつの山岳会ではない面白さがあるように思っている。

もう一つは、今回の「山の天気ライブ授業」を開催して感じたことは、我々が山岳気象を学ぶ良い機会だったことはもちろんだが、一般の登山者も参加されたことは、今回の記念事業の目的でもあったが、日本山岳会を知っ

てもらえる良い機会だった。

同時に、山形支部との交流会も、猪熊隆之会員、前会長・小林政志会員を囲み、久しぶりにお互い顔を合わせて懇親を深めることができたことは、実に有意義な会であった。

皆さまも積極的に全国の行事には参加されることをお勧めいたします。

【宮城支部令和5年度通常総会議事録】

1. 日 時 令和5年4月29日(土)
2. 場 所 亶理郡山元町 千石支部長宅
3. 議決権を有する会員総数 35名
4. 出席者 千石信夫、三宅泰、冨塚和衛、冨塚眞味子、横山哲、鳥田笑美、遠藤幸壽、八尾寛、鳥山文蔵、計9名出席、委任状15名、合計24名。依って過半数を超え総会は成立。

これまで新型コロナ感染により、通常総会は書面開催やメール審議が続きました。このたび4年振りに会員出席による総会、それも移動総会として開催されました。

開会後の千石支部長が「祝日にもかかわらず総会に出席いただき、また午前中の記念山行にも参加していただき、ありがとうございます。久方ぶり対面での宮城支部総会、よろしく願います」と挨拶。その後、規約により千石支部長を議長に選出、議事に入った。



▲千石支部長宅で開催された移動総会

5. 議 事

第1号議案「令和4年度事業報告」が富塚事務局長より説明。第2号議案の「令和4年度収支決算報告」は会計担当の千石役員より説明、続く「令和4年度監査報告」は会計監事の横山役員より適正であると報告され、1号、2号議案は拍手多数で承認された。

第3号議案「令和5年度事業計画(案)」が富塚事務局長より、第4号議案「令和5年度収支予算(案)」が千石担当から、それぞれ説明、採決の結果、拍手多数で承認された。

今年度は役員改選期となり第5号議案「役員の改選(案)」が千石支部長より説明、女性懇談委員を務めた富塚真味子役員が退任、新しく山行集会委員として遠藤幸壽会員、メディア委員長として加藤知宏会員がそれぞれ役員に就任すること、並びにその他の役員がそれぞれ令和5年、6年の2期留任することが全員一致で承認された。

最後に、宮城支部役員名簿と委員会名簿について富塚事務局長が説明、令和5年度の宮城支部総会は終了した。

尚、総会に先立ち午前中、山元町にある深山(287m)に記念登山が行われた。穏やかな天候に恵まれ楽しい低山山行となり、下山後は千石支部長宅で総会のみ出席者と一緒に豚汁をいただきながら昼食タイムとなった。

[登山参加者] 富塚和衛、富塚真味子、遠藤幸壽、鳥田笑美、鳥田伊志、八尾、白井浩、村上敏郎、津久井宏 以上9名 (事務局)

【役員会議事録】

■令和5年3月定例役員会

日 時：3月16日(木)

場 所：仙台市シルバーセンター5F 会議室

出席者：千石支部長、富塚、千葉、柴崎、高

橋、佐藤、横山、鳥山、計8名

千石支部長より「あつという間の2年間でした。役員の改選期でもあり、新年度の議事をお願いします」と挨拶、議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告 (富塚)

①支部事業報告書・支部会計報告書について
準会員7名の内、3年過ぎて退会する方が4名。その内1名が正会員になられた。あとの3名は準会員として残る。今後、退会する準会員を支部友に勧誘する方策を考えるべきとの意見あり。川協会員は東京転勤となる。尚、宮城支部会員の平均年齢は71.4歳。

②令和5年度支部事業計画書確認・修正依頼の件について

本部に提出する事業計画書のフォーマット見直しを以前に報告したが、その修正依頼があり、富塚事務局長より再度報告する。

③移動総会について (千石支部長)

コロナも落ち着き、対面での総会を4月29日(土)開催しますので多くの会員に参加していただきたい。今回は「移動総会」として、午前中に深山登山を行い、午後から総会とする。山に登らない会員は昼まで支部長宅に集まってください。(前項参照)

④山の天気ライブ事業について

座学の定員は何名でも構わないが、蔵王山馬の背で行う予定の実学は、説明が聞こえる範囲ということで30名程度となる。尚、座学の会場は遠刈田公民館を予定。参加は無料。

ロ) 山行集会委員会からの報告

○春山山行(4月)実施計画について

4月の春山山行は実施しないが、5月27日に七葉師駆けを計画している。

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告

・「宮城山岳通信」28号を3月7日付で発行

・これから発行する「宮城山岳」第27号の編集骨子案を説明、意見交換。

二) 山岳古道調査特別委員会からの報告

①全国山岳古道調査担当者会議について

4月5日(水)にZOOMで開催されるが、本部からの報告が主となる。

②街道さんぽ「関山隧道&嶺渡」について

主催者の「関山街道フォーラム協議会」より日本山岳会宮城支部へ共催依頼があり、承諾。尚、実施日が4月29日で総会とバッティングするので日程調整が必要。

③高橋氏より、宮城県から自然保護活動の報告依頼があり、二口街道の刈払いを報告する旨、了承。

《審議事項》

① 新役員の承認について

新役員として加藤知宏、遠藤幸壽の両会員が加わる件と富塚眞味子会員が役員を退任する件は承認された。

② 令和5年度総会資料について

第1号議案「令和4年度事業報告(案)」を富塚、第2号議案「令和4年度収支決算報告書(案)」を千石、第3号議案「令和5年度事業計画(案)」を富塚、第4号議案「令和5年度収支予算書(案)」を千石、第5号議案「役員改選(案)」を千石支部長が、それぞれ説明、質疑応答がなされた。

尚、宮城支部の各種委員会名簿の説明があり、変更は「山行集会委員会」に細川、遠藤両会員、「メディア委員会」の委員長に加藤会員、富塚会員は委員となる。

■令和5年5月定例役員会

日 時：5月17日(水)

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、富塚、千葉、柴崎、高

橋、横山、鳥田笑美、草野、佐藤、遠藤、鳥山、計11名

千石支部長より「今年度初めての役員会、新役員が加わった体制で、よろしくお願ひします」と挨拶。新役員となった遠藤会員より一言挨拶のあと議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告(富塚)

①移動総会開催結果について

前記の「令和5年度通常総会議事録」参照。富塚事務局長より総会議事録を本部に送り諒承されたと報告。

②「山の天気ライブ授業」について

この催しは日本山岳会創立120周年記念事業として実施する。現時点で会員以外の方(11名)より申し込み。山形支部との交流会もあるので、会員の皆様には是非出席してもらいたい。尚、一般参加者向けにJAC入会のパンフレットを用意する。

③第36回東北・北海道地区集会について

7月1日(土)、2日(日)青森支部主催で開催。現時点で宮城支部の参加者は8名。

④第36回全国支部懇談会について

9月23日(土)・24日(日)、群馬支部が担当し4年振りに開催される。会場は水上温泉・谷川岳周辺、会費は2万円(宿泊食事込み)

⑤新入会員について

準会員として今野理恵さん、支部友会員として小林浩彦さんの2名が入会

ロ) 山行集会委員会からの報告(千石)

①第12回親子登山教室(5月)について

残念ながら申し込みがなく中止した。日程がGWと重なり、日にち設定がマズかった。今後はGWを外す日程を組む。

②春山山行(七薬師掛け)実施について

支部設立65周年の年、5月27日皆さんと

「無病息災」を祈願する7座+2座、9座の七薬師を踏破したい。→柴崎会員より車を使うことはいかがなものか。また3グループまで分けなくてもなど、アドバイスがあった。

ハ) 会報・編集出版委員会から報告(鳥山)

「宮城山岳」第27号は、本文49ページとなり、5月16日に製本依頼した。10日後ぐらいに出来上がる予定。

二) 他委員会からの報告(千石)

今度の「宮城山岳」に“風力発電事業計画に対する見解”が載るので、同様の原稿を宮城支部のHPにアップするよう、メディア委員会で作業してもらいたい。

ホ) 山岳古道調査特別委員会の報告(冨塚)

①全国山岳古道調査担当者会議(ZOOM)結果

4月5日日本部からの一方的な説明で終わった。(後記「全国山岳古道調査 関係」参照)

②TOPページの原稿依頼について

各古道のトップページを5月20日まで提出。蔵王古道は写真を添付すれば出来上がる。

佐藤→「蔵王古道の会」の文言や写真をそのまま使うのはマズイ。了解をとらないと。

千石→他の写真を探してみる。

③ 第5回山岳古道調査特別委員会の開催

今後、日程を調整し連絡する。

④出羽・仙台街道現地調査の実施について

遅れている調査を6月10(土)、11日(日)に実施する。参加者は4名

⑤支部と本部の個別ZOOM会議

5月22日(月)に支部から本部へ調査の進捗状況を報告する。

《審議事項》

○2023年度山行集会委員会の行事担当者(案)―千石委員長

・6月25日の露払い山行を担当する草野会員は難しいとのこと。

・予定の中で7月9日に計画した「第11回登山教室」が抜けている→入れる

・海外トレッキングが「夏山山行」となっているが、「特別企画」の方が良い。

《その他》

・千葉会員より海外トレッキングの説明

期間は7月15日～24日。チロルとザルツブルク方面。オーストリアを中心にグロスクロックナーを展望するトレッキング。現在8名の参加予定

・ビールパーティは8月3日(木)に開催

■令和5年6月定例役員会

日時:6月15日(木)

場所:仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者:千石支部長、冨塚、千葉、柴崎、高橋、草野、横山、佐藤、遠藤、鳥田笑美、加藤、鳥山、計12名

冒頭、新役員となった加藤会員より挨拶のあと議事に入った。

《報告事項》

イ 総務・財務委員会からの報告(冨塚)

① 支部連絡会議(ZOOM)会議結果について

5月22日(月)に開催、千石支部長と冨塚が参加した。報告として、入会者が少なく退会者が多いという会員の減少傾向が続き、この状況から決算も赤字となり、解消に努めなければならない。登山教室を開催し、会員増に結びつけている支部もあるが、減っている支部が多いなどの報告があった。

② 「山の天気ライブ授業」参加申込み状況

③ 宮城・山形支部交流会参加状況について

初日の座学は37名の申込みだが、蔵王町から数名参加希望があり40名ぐらいになりそう。2日目の実学には31名の申込み。尚、山形支部からは6名の申込みがあり、宮城支部

10名と交流会を開催する。

④ 令和5年度本部通常総会ハガキ投函のお願いについて：本部より依頼メールあり。

⑤ 全国支部懇談会について（群馬支部）

現時点で宮城支部から1名の参加申し込み。

⑥ 「山岳」第118号(2023年度版)「支部の活動報告」原稿のお願いについて

毎年、定型式のものなので事務局で対応

□ 山行集会委員会からの報告(千石)

① 春山山行 七葉師掛け実施結果について

参加者7名、内訳は準会員1名、支部友2名、会員4名。7名のうち全コース踏破したのは3名。参加者から、なかなか体験できなかったのが良かったとの声(後記「宮城支部山行報告」参照)

② 露払い山行(水引入道)実施計画について

6月25日(日)に実施、現在4名の参加希望。南蔵王の水引入道から屏風岳までハードなルートだがチャレンジしたい。

ハ 他委員会からの報告

○自然保護・科学委員会(柴崎)

風力発電事業計画に対する見解を「宮城山岳」第27号に掲載した。会員の皆さんが山に行った際、注意深く見て、何かおかしい所があれば、情報として教えて下さい。

尚、自然保護委員の宇都宮昭義さんが今月、京都に引っ越すが、宮城支部会員として在籍するので、引き続き委員を担当してもらおう。

○高所登山・医療委員会(千葉)

第43回登山医学会学術集会が6月3日、4日、大宮市の自治医科大学さいたま医療センターで開催。山小屋で夏期開く診療施設の紹介などがあった。

○会報・編集出版委員会(鳥山)

・「山の天気ライブ授業」と「露払い山行」の原稿依頼。「宮城山岳通信」第29号を7月上

旬のHPアップを目指す

・執筆者が山行コースを記した国土地理院の地図を会報に掲載する場合、著作権的に問題がないか確認→問題ない。

ニ山岳古道調査特別委員会からの報告(富塚)

① 全国山岳古道調査担当者会議(ZOOM会議)結果(5月22日)について(後記参照)

② TOPページの原稿について

調査が途中でもHPに掲載したいとのことで原稿を作り送った。

柴崎：協力してもらった団体やグループと原稿の最終確認もしたいので内容をチェックしたい。また、“山岳古道”なのだから付近の山との関係をもっと色濃くだすべきと提言。

③ 出羽・仙台街道現地調査(6月10日・11日)の実施結果について：参加者は千石、富塚、千葉に、郷土歴史家の大山厚昭(前鬼首公民館館長)さんに案内してもらった。10日は尿前の関(番所)から県境の境田まで、11日は境田から尿前の関まで歩き、データをとった。

④ その他

・第5回目の山岳古道調査特別委員会を7月頃を予定したが8月末頃に開催したい。

・古道調査で提出する原稿はリーダーだけでなく、担当スタッフにも積極的に書いてもらいたい。

《審議事項》 特になし

《その他》(千石)

① 退会員について

支部友の山田孝司さんより高齢となり退会したいとの申し出があった。

② 文登研主催の「安全登山サテライト・セミナー」(オンライン)の案内

6月29日から定期的に開催されるので、準会員や支部友の方々に参加してもらいたい。詳しくは文部科学省登山研究所のHP参照。

【全国山岳古道調査 関係】

■全国山岳古道調査担当者会議

日時 令和5年4月5日(水)19時から

ZOOM会議で開かれ、本部からの報告がメインとなった。宮城支部から富塚委員長が参加した。

主な議題は一

- ・原稿などの進捗状況と本部担当者
- ・寄附金などの会計報告
- ・手ぬぐいとパンフレット第2弾完成
- ・HPの公開について
- ・概要作成のお願い
- ・熊野古道 集中山行イベント

本部より報告があった後、質疑応答でJACのHPを見て古道を歩いたら、廃道になっていたとクレームが来り、危険な道になっていると問題なので、誤解のないように記載してほしいと注意があった。

■全国山岳古道調査担当者会議

日時 令和5年5月22日(月)19時から

ZOOM会議で開かれ、これまでの各支部の進捗状況の報告。年度末まで各担当古道のテンプレートを本部まで送ることに。

【宮城支部 山行報告】

早春山行

報告者 遠藤幸壽

実施日 令和5年3月25日(土)

山域 白沢五山[函倉山・前山・岩垂山・小塚(森)山・大森山]仙台市青葉区宮城地区

コース 広瀬文化センター駐車場(9:00集合)～白沢(函倉口)から入山(9:30)～函倉山(10:10)～函前の辻～前山(10:50)～五郎山(11:30)昼食(12:00)～五郎峠～岩垂山(12:30)～べこ尾根頭～小塚山(13:00)～馬の神峠



▲函倉山頂で地元の佐藤さんが標柱を説明

～大森山(13:30)～馬の神峠～大針口下山(14:00)～広瀬文化センター駐車場:解散(15:00)

参加者 会員=遠藤幸壽(CL)、千石信夫(SL)、佐藤昭次郎、草野洋一、加藤知宏、準会員=八尾寛、支部友=村上敏郎、津久井宏、鳥田伊志、白井浩、山元町山歩き愛好会=今村貞行、一条勝人、以上12名

当日の朝、天気は曇天。山に雲がかからないように祈りつつ出発しました。下山口(大針口)に車を1台残置し、車両3台に分乗した12名は、登山口の上愛子小学校近くに駐車。入り口の白沢口(小さな手作り看板)から、函倉山(349m)へ向かいました。

陽射し無し、風無し、景色なし(春霞)の中、しっかりした踏み跡と地元の方の案内で、ほどなく山頂へ。上愛子小学校児童の遠



▲函倉山頂での集合写真



▲函倉頂上近くに咲くショウジョウバカマ

足の記述がありました。また、頂上直下ですれ違った 25 人程の団体は、「女性と年寄りが多いんだから、追い抜かないでね」と言い残して前山方面へ下っていきました。尾根道を五郎山方向に向かい、函前の辻で左折し、前山 (346m) へ。徐々にショウジョウバカマやカタクリの山野草が現れました。

前山は顕著な頂は無く、標識の所まで平坦な道が続く。前山の山頂からは愛子方面の景色が徐々に見えはじめ、視界が開けてくる。函前の辻まで戻り、五郎山は間もなく。五郎山は白沢五山に入っていないが、視界の広がる広場がある頂上で早目の昼食となる。メンバーは各々持参したお弁当を広げ、白澤カルデラの話題に弾んだ。「600 万年前に出来たカルデラ湖の、堆積層の中心部の硬い部分が残って白沢五山が形成された」と、メンバーから説明がありました。

お腹を満たした所で、岩垂山 (348m) へ向かう。五郎峠の分岐は注意を要する。幅広の道から、左へ脇道に下りて行く。幅広の道は秋保の二ノ輪山 (鈴の辻) への道。岩垂山へは尾根道となり、対岸に前山を眺めながらの山行で快適だ。この辺りのカタクリは、まだ花が付いていない。岩垂山山頂は林の中で、新緑のころには視界が無くなる。

次の小塚 (森) 山へは岩垂平・べこ尾根の



▲前山山頂での集合写真

頭へと進む。そのころには霞が薄れて、戸神山や秋保の大倉山が手に取るように眺められる。笹藪が多くなってくると、左へ小塚 (森) 山 (345m) への標識が矢印で示される。小塚山へは間もなくで、林の中には小さな標識がお迎えしてくれる。足元一面にカタクリの群生だ。

頂上から少し戻り、左に「馬の神峠」への分岐を下る (急坂) と、登山道を横切り、50 ㍎下りで峠の標識と十字路に出る。大森山 (364m) へは真っ直ぐ進む。この辺りではカタクリの花が咲いていた。急坂を 10 分ほど登ると、突然視界が開ける。ゼオライト採掘場だ。頂上まで採掘が進んでいる。大森山は東西で全く違う様相を呈している。東側は頂上まで採掘運搬用のダンプ道が通り、ブルドーザーが唸りを上げていた。



▲大森山山頂での集合写真

気を取り直して、今登ってきた道を下る。

馬の神峠の十字路を右折すると、すぐ石塔がある。そこからは登山道で、沢筋を一気に大針口へ向かう。所どころ道は崩れているが、迷うところはない。杉林の入口の「イノシシ除け用柵」を出た所に大針口の標識があり、残置した車が待っていた。ドライバー3人を上愛子小学校まで送ってもらい、車を回送して、メンバーを広瀬文化センターまで乗せてもらった。

今回の山行では、遠景に蔵王や大東岳、泉ヶ岳、船形山などを眺められず、次回持ち越しとなったが、全員怪我やバテた様子もなく、無事予定時刻前に解散することが出来た。

■5月6日(土)に予定した公益事業山行「第12回親子登山教室(深山)」は、参加者が無く中止した。

春山山行

報告者 細川光一

実施日 令和5年5月27日(土)

山域 七薬師掛け

(七ツ森+2座全山縦走)

コース 玉ヶ池駐車場～たがら森～^{とがくら}遂倉山～^{なでくら}鎌倉山～^{なでくら}大倉山～^{しんぎょうじ}撫倉山～^{しんぎょうじ}松倉山～信楽寺跡～堂ヶ森～^{はちくら}笹倉山登山口～玉ヶ池駐車場

参加者 会員＝細川光一、千石信夫、冨塚和衛、冨塚真味子、準会員＝八尾寛、支部友＝小林浩彦、白井浩、計7名

七ツ森は古より石神山神社、古より信仰に山であり霊地。今から250余年前、宮床伊達家の家臣・八巻景任、景長親子が背負って安置したと伝えられる薬師如来七峯を一日で巡拝する風習「七薬師掛け」、七つの険しい山



道を踏破することが、今回の山行。無病息災を願い計画する。

全行程踏破組は、休憩含み12～14時間予定。全てを歩き切る班と、笹倉山を除く2班の計画となりました。

当日の集合場所は山城入口のセブンイレブン。早朝4時、当初、全行程踏破組員の配車を玉ヶ池でしたが、スペースが無く、ダム下に変更。信楽寺に2台、ダム下3台とし、その地点から全員、夜が明けきらない5時スタートする。

まずは車路よりスタートし、イノシシのガードフェンスを開けると本番となる。

陽が差し込まない沢で北入口行き過ぎたが、目覚めの急登を無事登り“たがら森”。ここは、以前は薬師如来でしたが、今は文殊菩薩が安置。先ずは記念撮影(その後も行程を考慮し、水分補給と記念撮影の短い休憩とする)。

“たがら山”からは登山路折り返し、^{はちくら}遂倉山、^{はちくら}鎌倉山、^{はちくら}蜂倉山、大倉山を同様に、ロープの助けを借りた登り下り、山頂での水分補給と記念撮影を繰り返す。笹倉山を除くこの山城最高峰・撫倉山は、コース唯一のハシゴ登りを終えて間もない。山頂からは、大和町そして栗駒山や太平洋が見渡せる七ツ森山頂で一番のパノラマ。

残す松倉山。やはりロープの助けを借り山頂。下山は、早春には二輪草で登りを忘れる

山行10日後の七ツ森の朝



笹倉山	松倉山	撫倉山	大倉山	蜂倉山	鎌倉山	遂倉山	たがら山
506.5m	291.2m	359.0m	327.1m	289.0m	313.0m	307.8m	232.0m



ルート図 青線：山岳ルート 黒線：車道ルート

坂も、今は浮石に注意が必要な長いロープ区間を終えると、信楽寺跡に到着。そこには休憩できる簡単な椅子テーブル、給水できる蛇口があり、早めの昼食と水分補給で長めの休憩となる。

次は、セツ森に数えられていない“洞が森”(97m)の神社のお参りは、やはりイノシシ除けの金網の扉からのピストン。ここで、ここまでの2人と別れる(一人は笹倉山の下山路で待合せ)。別れを終え、いよいよ登るより辛い、車道の行進。

この行程が今回の山行で一番厳しいと思われ、無情にも5月とは思えない陽の強さで会話も無く、ひたすら笹倉山駐車場を目指す。駐車場では水分補給と笹倉からのロードを考え、長めの休憩となる。

駐車場からのコースは、ロープも梯子もない一般的なルートでホッとす。一気に山頂手前、今日の行程が見渡せる国見崎展望台に立ち寄り、今日踏破したコースを達成感に浸り、笹倉山に到着。

お参りと達成感を祝う。

東からの登りを下山路は、北方向の下山ルート。木立に囲まれた今回の山行で、一番ゆったりとした山道で、個人のトレーニングでは駐車場からの往復のみでしたが、嬉しい発見でした。これから待ち受ける“死のロード”



▲笹倉山山頂で踏破達成を祝う

を前にホッと一息。車路には1台の車がお迎え、2人がここまでとなる。

別れを告げ、残る3人は休憩せず車道をスタート。到着地点は、登りは少なく、夕暮れが映える南川ダム湖畔道路を終えて、直ぐにたどり着く。

“早朝5時出発、夕方5時着”・・12時間の山旅、お疲れ様でした。

後日、八尾準会員からのお礼のメールに――

若者ら長者娘競いしな 無病息災七葉師掛け 縄伝ひ陰しき坂の上り下り 力試しの頂き七つ 道はるか母なる山に分け入れば 森深くして人を迎へり (笹倉山)

の短歌が添えられていました。ありがとうございました。

梅雨 払い 山行

報告者 八尾 寛

実施日 令和5年6月25日(日)

山 域 南蔵王・水引入道(1656m)

コース 白石スキー場駐車場(842m)～林道登山口(813m)～大日向(1580m)～水引入道(1656m)～同ルート下山

参加者 会員=佐藤昭次郎、千石信夫、準会員=八尾寛、佐藤善武、支部友=村上敏郎、白井浩、小林浩彦 計7名

梅雨明けは、まだまだ先のようなだが、予想天気図によれば梅雨前線は、本州の南海上に停滞し、東北地方は日本海に中心を持つ高気圧のへりに覆われる見込みだ。上空は薄い雲に覆われてはいたが、空は明るく、見晴らし

もよかった。参加者全員が集合し、自己紹介した。小林氏が前回山行（七葉師掛け）の写真集を各参加者に配布して下さった。ひとしきり苦労話に花を咲かせたが、さて、本日の山行や、いかに・・・。

予定通り7時に駐車場を出発し、しばらく神嶺林道を歩いた。後ろから来た車に追い越されたので、登山口周辺に駐車できるのかもしれない。7時30分、ジャンボリー・コース登山口に到着した。登山口の表示板があることはあるが、小さいので見落とすところだった。

エゾハルゼミのにぎやかな鳴き声に送られながら、針葉樹とブナの混合林の緩やかな坂を登り始めたが、すぐに10人ほどのパーティに追い越された。東北学院高校の山岳部とのこと。昨晚、南蔵王青少年野営場でキャンプし、水引平まで往復するそうだ。このコースは、どんどん登っているにもかかわらず、同じような風景が続く、いま、どのあたりを歩いているのかが皆目わからない。

しだいに傾斜が急になり、綱をつかんでよじ登るような場所も現れた。登山道にはサラサドウダンの花が降り積もっており、季節の



▲水引入道への急登

移り変わりを感じた。代わりにウラジロヨウラクが咲き始めていた。

さらに尾根を巻くように道が続く、小さなアップダウンを繰り返した。左手には南屏風岳から不忘山に至る主稜が望まれ、その先に七ヶ宿町の山々が連なっていた。主稜の中腹には薄く雲がかかり、いかにも深山幽谷の趣があった。麓に白く輝く水面は、長老湖だろうか・・・。この辺りへ来ると木々の背丈も低くなり、ナナカマドが白い花をつけていた。コバイケイソウ、ゴゼンタチバナ、ツクバネソウ、ツマトリソウなどが登山道わきに次々と現れ、疲れを癒やしてくれた。そのなかに小さな白い花をつけたランが一株、美しく咲いていた。村上氏によれば、オノエランという希少種であるとのこと。植物に関する村上氏の知識の深さに皆が敬服した。

灌木地帯を抜け、10時30分、ガレ場に出た。大日向である。道標が立っているが、文字が消えかかって読み取れない。ここからは不忘山、南屏風岳から屏風岳に至る主稜線が一望できた。ところどころ谷筋に残雪が見えた。谷を越えて流れてくる風が、それまでの疲れをいやしてくれた。

目を転ずると、水引入道の頂上が眼前にそびえていた。コガ沢からの登山道を合わせ、岩稜帯を登り始めると、タカネバラとウスユキソウが混じって咲いていた。岩肌に赤、白、緑のコントラストが映え、その美しさに、しばし足を止めた。ウスユキソウがエーデルワイスの近縁種であるという村上氏の話に、チロルの山旅を連想した。山を下ってくる高校生パーティとすれ違いながら、ぐんぐん高度を上げ11時頃、水引入道頂上に到達した。

さて、山頂で行動食をとったり、記念撮影

などをしていると、ジャンボリー・コースで



▲水引入道頂上にて。左から佐藤(昭)、八尾、小林、白井、村上、佐藤(善)

我々を追い越した女性の二人連れが、水引平から引き返してきた。頂上からの展望は、遮るものがなく、はるか屏風岳山頂へ続く登山道が見渡せ、挑戦心がふつふつと沸き上がった。そこで、村上氏を除く6名が屏風岳へ向かい、水引入道を下った。この登り返しの道も心地よく、ハクサンチドリやチングルマの花が出迎えてくれた。すでに綿毛を付けたチングルマもあり、場所により季節の訪れが異なるのだろう。

しばらく登り、11時20分、水引平に到着した。水引平は小さいながら湿原になっていて、池塘が一つできていた。池塘にはテニスボール大のゼリー状の塊が、ゴロゴロと漂っていた。その脇には数匹の黒いサンショウウオが群がっていたので、サンショウウオの卵



▲水引平にて記念撮影。前列左より小林、八

尾、後列左から佐藤(善)、白井、佐藤(昭)

囊であろう。池塘の畔にワタスゲが花をつけていた。ここから屏風岳頂上までは、コースタイムで往復約1時間半が見込まれるが、ここまでで撤退しようという提案が千石氏から出された。予定を1時間ほど超過していることと、メンバーの疲労を慮ったことと思われる。そこで、水引平で昼食をとり、記念撮影を済ませ、水引入道へ引き返した。

12時00分、登りと同じコースをたどり、村上氏と再会し、山頂を下り始めた。途中、大日向でコガ沢沿いのコースを登ってきたという女性の二人連れと出会った。かなり険しい登りだったので、少し休んでからジャンボリー・コースを下ろうと考えているとのこと。我々のほうは時間に余裕あることもあり、のんびり下って行った。

下りとはいえ、同じような景色の中を歩くのは、精神的に疲れるものだ。“ぐるぐると同じ場所を歩かされているのではないか”という冗談も飛び出すほどだ。途中で道標やベンチなどの目印があれば、少しは楽になるのではないかと思われる。

休み休み下りていくと、先ほどの二人連れが、楽しそうに話をしながら追い越し、ずんずん下って行った。こういった長丁場を乗り切るコツを教えられたように思う。

やがて、登り初めに見かけたギンリョウソウを見つけ、出口は近いぞと元気もらい、14時30分、神嶺林道に降り立った。15時00分、予定より30分早く白石スキー場に到着。全員無事を確認し、解散した。筆者と佐藤善武氏は、遠刈田温泉・神の湯に立ち寄り、全行程8時間の汗と疲れを洗い流した。

■7月9日(日)に予定した「第11回登山教

室」は、諸事情により中止した。

【準会員・支部友 入会員紹介】

新しく宮城支部に入会された方々をご紹介します。

○準会員 今野 理恵さん (1971 年生)

過去に北アルプスや南アルプス、中央アルプスの山々に登ってきました

○支部友 小林 浩彦さん (1961 年生)

今年 4 月 29 日に西風蕃山に登り、入会後に 5 月の七葉師掛け、6 月の梅雨払い山行に参加しました。

会員の皆様、よろしくお願ひします。

【全国支部懇談会開催のご案内】

群馬支部が、支部創立 10 周年を迎えることから、日本山岳会全国支部懇談会が群馬県で開催されます。

期日 2023 年 9 月 23 日 (土)・24 (日)

場所 水上温泉・谷川岳周辺
(群馬県利根郡みなかみ町)

〈宿泊〉水上館 (水上温泉)

〒379-1612 みなかみ町小日向 573

〈交通〉

最寄り駅 JR 上越新幹線・上毛高原駅

または JR 上越線・水上駅

最寄り IC 関越自動車道・水上 IC

会費 20,000 円 (宿泊 1 泊 2 食、懇親会費、谷川岳山麓ハイキング、お弁当含む)

内容 1 日目 (9 月 23 日)

開会 (13 時頃)

講演会

懇親会

2 日目 (9 月 24 日)

谷川岳周辺のハイキング・観光など

全国支部懇談会に参加希望の方は宮城支部事務局の冨塚事務局長までご連絡下さい。

【今後の行事予定】

☆7 月 28 日 (金)

定例役員会 (仙台シルバーセンター)

☆8 月 3 日 (木)

ビールパーティ

☆8 月 31 日 (木)

第 5 回山岳古道調査特別委員会

(仙台シルバーセンター)

☆9 月 9 日 (土)

初秋山行

☆9 月 20 日 (水)

定例役員会 (仙台シルバーセンター)

☆9 月 23 (土) ~24 (日)

全国支部懇談会 (群馬支部・水上温泉)

☆10 月 11 日 (水)

定例役員会 (仙台シルバーセンター)

〈事務局担当〉

諸事情により日程の変更があります。その際は、ご了承下さい。

【編集後記】

先月の新聞で、昨年 1 年間に山で遭難した人は 3,506 人で、過去最多 (統計が残る 1961 年以降で) になったという記事を読んだ。その年齢層別では 70 歳代が 23.5% と最多で、60 歳代の 20.2% が次ぎ、60 歳以上で 50.7% を占めるという数字に驚いてしまった。

まさに宮城支部会員の平均年齢のみならず、日本山岳会全体の平均年齢ともオーバーラップする。今、日本国内の山々に挑み、楽しんでいる年齢層は、半分以上が 60 歳以上であることを如実に表している。

山岳遭難は絶対、避けなければならないが、登山者年齢の高齢化は益々、進むのだろうか。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第29号

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2023年7月14日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12 (冨塚宅)

連絡先 TEL 090-2790-3771